



HamComMixer 説明書

リグ通信混合アプリケーション (リグ1ポートに複数アプリを接続・中継) Ver 0.90

HamComMixer Ver0.90

COM Connect [接続中]

タスクトレイからの閉じるは無効です

最小化

終了

	通信ポート	通信速度	フォーマット
無線機	COM10	9600	8N1
アプリケーション1	COM7	4800	8N2
アプリケーション2	COM20	9600	8N1
アプリケーション3	COM22	19200	8N1

通信仕様 IcomCI-V-bin

無線機返信のタイムアウト時間(1~100m秒) 10

タイムアウトの動作選択 返信のタイムアウト コマンド処理の終了

起動時の自動接続 有効

自動接続後の最小化 有効

切断時遅延起動アプリの終了 有効

アプリケーション起動File(自動接続時)

No Use

アプリケーション起動File作成・編集
作成時は現在のCOM設定です

作成・編集

ファイル名

Msg >> COM 接続完了

萬拵屋 by I-system service

目次

HamComMixer 説明書	1
目次	2
はじめに	3
別途必要なもの	3
HamComMixer の基本動作	3
HamComMixer の説明	4
インストール	4
HamComMixer の起動・説明	6
COMポートの接続例	10
遅延起動のファイル書式	12

はじめに

この度は、萬拵屋アプリケーションをダウンロードいただきましてありがとうございます。
ご使用前やご利用中にこの説明書をお読みいただき正しくご使用いただけますようお願いいたします。

別途必要なもの

- * 無線機・外部アクセサリ（TC-AH4等）に接続するためのCOMポート（実ポート・USBシリアル変換）
（USB等で無線機から直接パソコンに仮想COMがある場合は不要）
- * Nullモデム「com0com」のインストール
（インストール出来ない場合は実ハードのCOMポート、またはUSBシリアル変換等でのCOMポート）
- * パーソナルコンピュータ Windows10以降・・・Windows7等でも可能かも
（.NetFramework4.6.1以上が必要です・・・VisualStudio2017で「.NetFramework4.6.1」にて作成）

HamComMixerの基本動作

基本的な機能はパソコンに接続されたリグの通信ポート（CAT・CI-V等）に本来は対一でしか接続できない状況を接続されたアプリケーションからのコマンドを個々に中継する事で複数のアプリケーションとリグの通信を実現させるものです。アプリケーションからのコマンドはどのアプリケーションからかの情報を添えて内部のキューに格納し、リグに送信することで応答をそのアプリケーションに返信する仕様です。CI-V・旧八重洲無線のCAT（バイナリ通信）の必ずリグ応答のある場合はその応答をもって次のコマンドキューに移行します。ケンウッド・新しい八重洲無線等の応答を伴わないコマンド・複数の応答に対応する場合にはアプリケーションからのコマンドに対してリグへコマンドを送信した時点、もしくはリグ応答からの時限により次のキューにあるコマンドの処理を開始します。この為この時限時間分次のコマンドキューに移行する時間が必要な為、高速な応答を伴わないコマンドの連続要求は処理の遅延を生ずる可能性があります。

このアプリケーションの動作をよくご理解の上ご利用をお願いいたします。

説明書では例としてSD-CNTを接続していますが、この限りではなく任意のアプリケーション3つまでOKです。

誤動作・遅延の参考例

HamRadioDeluxe・各社の提供されているリグリモートアプリケーション等の高速通信にはコマンド応答の遅延等でアプリケーションから異常メッセージが発生する可能性があります。また「com0com」等による仮想のヌルモデム等での、異常動作の可能性により仮想ポートに不具合が発生する場合もあるかもしれません。USBシリアル変換でのアプリケーションとHamComMixer接続もそのUSBドライバー性能に依存される場合も可能性としてはあります。

おまけ機能（アプリケーション順次遅延起動）

接続する環境でのいろいろなアプリケーションをHamComMixerの起動時に自動的に遅延起動する機能があります。この機能を利用するには遅延時間・アプリケーションのフルパスを含む実行ファイル名・起動オプションの記述（省略可能）の設定ファイルを作成する必要があります。

接続可能な通信

旧八重洲無線のバイナリーCAT通信

FT-817、FT-857、FT-897等のCAT通信
対応コマンドはFT-817説明書記載のコマンドに限定されます。

kenwood・新しい八重洲無線の「;」をデリミタとするアスキーでのCAT通信

TS-480・FT-991等・・・ほぼ対応可能と思われます

ICOMのバイナリー「FD」をデリミタとするバイナリー通信

IC-7300・IC-705等・・・ほぼ対応可能と思われます

HamComMixerの説明

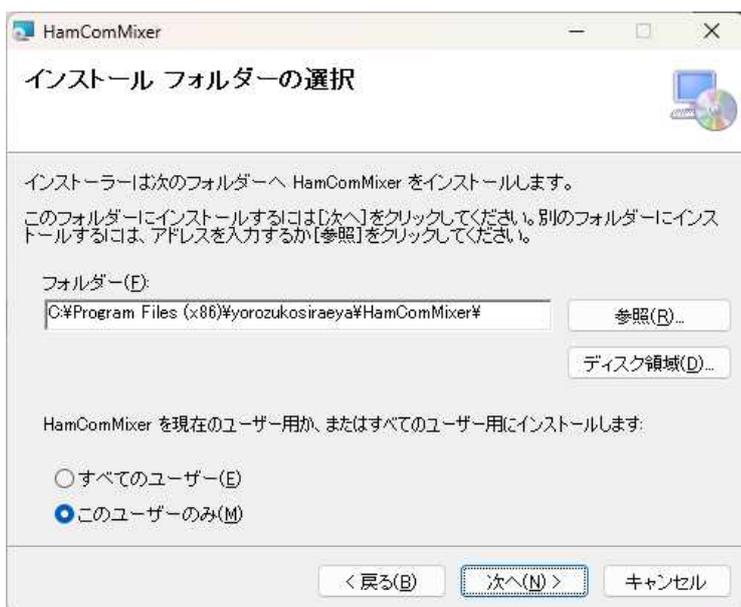
インストール

インストーラーの起動

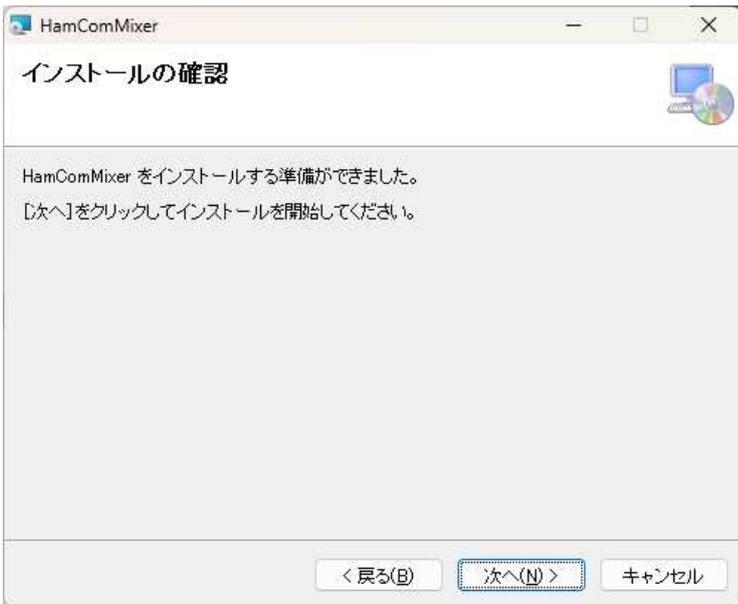
ダウンロードされたZIPファイルを解凍した「HamComMixer」フォルダーにある「Setup.msi」をダブルクリックで起動します。



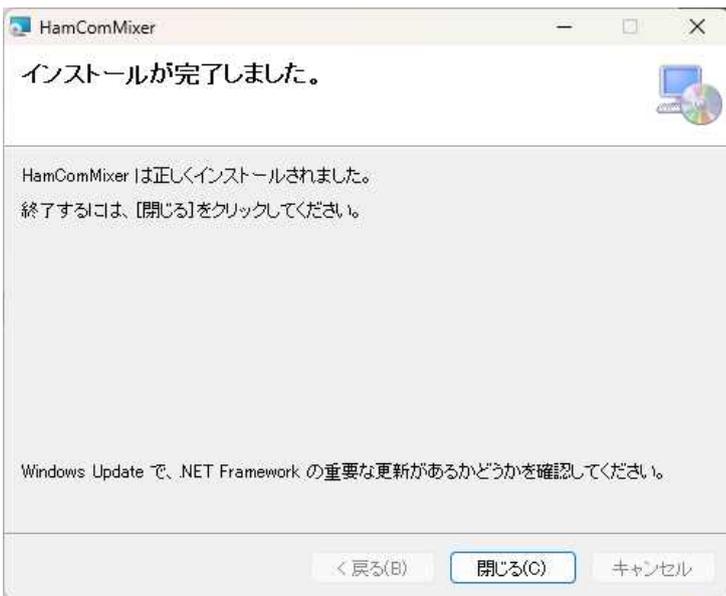
「次へ」をクリックします。



さらに「次へ」をクリックすると



この確認画面で「次へ」クリックでインストールが開始されます。
この時「ユーザーアカウント制御」の画面が表示されますので「はい」をクリックしてください。



これでインストールは完了です。
「閉じる」で終了してください。
もし「. Net Framework」の不足が表示されたら「. Net Framework 4. 6. 1」をインストールしてください。

HamComMixerの起動・説明

インストール後初めての起動

下記メッセージが表示されます。

このレジストリーには「HamComMixer」の終了時点での各設定が記憶されます。



「OK」をクリックしますと「HamComMixer」が表示されます。



無線機

通信ポート

必ず必要です。

ドロップダウンリストには起動時検索された存在するCOMポートが登録されます。無線機に接続されているCOMポートを選択します。

通信速度

300bps～115200bpsまでで無線機の設定されている通信速度を選択します。(できるだけ早い速度の選択がベターです)

フォーマット

無線機で設定されているフォーマットを選択します。

選択可能なフォーマットは「8N1・8N2・8E1・8E2・8O1・8O2」です。(データ長は8ビットのみで、ノンパリティ・偶数・奇数、ストップビット1、2)

アプリケーション1～3

- 通信ポート** 最低でも1つのアプリケーションの通信ポートが必要です。
ドロップダウンリストには起動時検索された存在するCOMポートが登録されます。
無線機に接続されているCOMポート以外を選択します。
未使用のアプリケーションは「No Use」にしておきます。
- 通信速度** 300bps～115200bpsまででアプリケーションの設定されている通信速度を選択
します。無線機に合わせる必要はありません。
(無線機の数より遅い方がベターかもしれません)
- フォーマット** アプリケーションで設定されているフォーマットを選択します。
選択可能なフォーマットは「8N1・8N2・8E1・8E2・8O1・8O2」です。
(データ長は8ビットのみで、ノンパリティ・偶数・奇数、ストップビット1、2)
ここも無線機に合わせる必要はありません。

通信仕様

無線機の仕様を選択します。アプリケーションはこの仕様での通信が必要です。

[YaesuCAT-bin]
古い八重洲無線のCAT通信です (FT-817等)

[Yaesu、KenwoodCAT-ASCII]
「;」でテリミタされる新しいYaesu、KenwoodのCAT通信です。

[IcomCI-V-bin]
Icomのバイナリーコード「0xFD」でテリミタされるCI-V通信です。

無線機返信のタイムアウト時間 (1～100m秒)

無線機にコマンドを中継送信してからのタイムアウト時間です。

1～100m秒 (0.1秒) で設定します。

Bluetooth等経由の場合は80～最大100の設定が必要です。

これはBluetoothでの仮想COMの場合かなりレスポンスは悪くなります。

**またしばらく通信が無い状態から開始したときは通信の開始にかなりの時間を必要とするよう
です。この為短い時間を設定するとタイムアウトで無線機からの返信が受けられない場合が多
く発生します。このためBluetoothでの接続はあまりおすすめ出来ません。**

タイムアウト動作の選択

返信のタイムアウト

無線機からの返信が必ずある場合はこちらを選択します。
この事で一つのコマンド処理は応答が無い場合この時間で処理が終わりますが、応答のあった場合はその時点でアプリケーションに中継してそのコマンドの処理は終了します。
このため一つのコマンドに対する処理時間は早くなります。

コマンド処理の終了

無線機へのコマンドが返信のない場合、返信を要求している場合、複数の返信がある場合が混在している場合はこちらを選択します。主に新しいYaesu、Kenwoodの通信がこれに該当します。返信の無いコマンドに対してはこの時間で処理を終了し、返信のある場合は返信を受信後にタイムアップ時間で処理を終了します。複数の返信では最後の返信後タイムアップ時間で処理を終了します。

<動作の選択分類>

八重洲の旧CAT (bin) 等で返信が一つ必ずある場合は「返信のタイムアウト」
八重洲やKenwoodのCAT (ASCII) の場合は「コマンド処理の終了」
ICOMのCI-Vの場合エコーバックのある場合は2つの返信を扱うので「コマンド処理の終了」
ICOM最新の無線機でUSB等エコーバック無しの場合は返信一つなので「返信のタイムアウト」

起動後の自動接続

この項目を有効にチェックしておきますと起動後自動的に接続処理が実行されます。
またこの動作時のみにあとで述べる他アプリケーションの遅延起動が可能です。

自動接続後の最小化

この項目を有効にチェックしておきますと起動後自動的に接続処理が実行後に最小化されます。また遅延実行のアプリケーションの登録があれば、その各アプリケーションの実行後に最小化されます。

切断時遅延起動アプリの終了

この項目を有効にチェックしておきますと起動時に行われた登録アプリケーション遅延実行の逆順でその各アプリに終了を要求します。
各アプリケーションの仕様で外部からの終了要求を受け入れないアプリケーションは終了されません。この場合はそのアプリケーションで終了してください。

アプリケーション起動File (自動接続時)

この項目を有効にチェックしておきますと起動時に自動接続の場合、ここで選択されているファイルのアプリケーション登録を実行します。このファイル設定が「No Use」の場合、自動接続しか行われません。またファイル選択がある場合は通信ポート・通信速度・フォーマット・通信仕様・無線機返信のタイムアウト時間・タイムアウト動作の選択・・・はファイルに設定された値に変更され動作します。
このドロップダウンリストの内容は起動時にC:\¥HamComMixerフォルダーを検索してリストされます。

ファイル名

遅延起動の登録ファイルを作成・編集する際のファイル名を入力します。空白の場合でアプリケーション起動ファイルが選択されていた場合はそのファイルの編集となります。

作成・編集ボタン

このボタンをクリックする事でファイルの作成・編集が「メモ帳」を起動して行われます。ここで新規作成の場合はそのファイル先頭に現在の通信ポート・通信速度・フォーマット・通信仕様・無線機返信のタイムアウト時間・タイムアウト動作の選択の情報が記述されます。またこのファイル（拡張子hcm）はC:\¥HamComMixerフォルダーに保存されません。拡張子はhcmですが、単純なテキストファイルです。

Msg >>

ここに動作の結果等が通知されます。またコマンドの処理状況も通知されますが表示的には見えない部分も存在します。コマンド処理開始はあまり見えません。処理の終了通知が見える程度です。他接続・切断等の通知です。内部処理的にエラーのあった場合はメッセージで表示されます。

最小化ボタン

表示ウィンドウを最小化します。復元はタスクトレイのアイコンをクリックしてください。タスクトレイでアイコン右クリックの「閉じる」項目は無視されウィンドウの復元が行われません。

終了ボタン

HamComMixerを終了します。接続中にクリックした場合は遅延起動アプリケーションの終了後に切断処理をしてウィンドウを閉じます。このとき現在設定されている内容をレジストリーに記憶し、起動時に復元します。

ComConnect ボタン

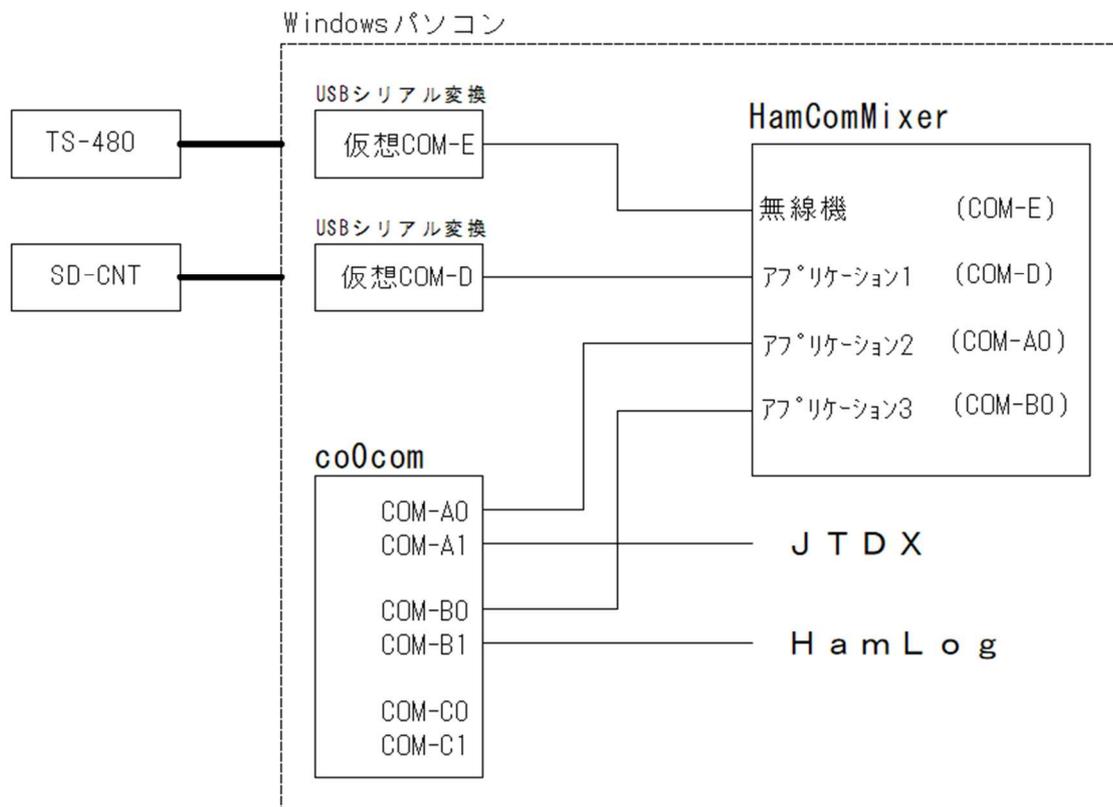
設定内容での接続処理、接続中では切断処理をします。接続中は緑色で、切断中は赤色です。切断時には自動起動で遅延起動したアプリケーションを終了させます。遅延起動はHamComMixerの起動時のみなので、再度遅延起動する場合はHamComMixerを一旦終了して、再度起動してください。

HamComMixerの多重起動に関して

先に起動して接続されたCOMポートは後で起動したHamComMixerでは開けずエラーになります。別のポート選択の場合はたぶん動作すると思われませんが、動作は未確認です。

COMポートの接続例

com0com等のNULLモデム使用の場合



USB シリアル変換器を利用して TS-480 を SD-CNT・JTDX・HamLog と接続するイメージです

基本的にはアプリケーション（JTDX・HamLog）と HamComMixer は Windows 上の COM ポートには一つしか接続 OPEN 出来ないので com0com を利用して接続しています。

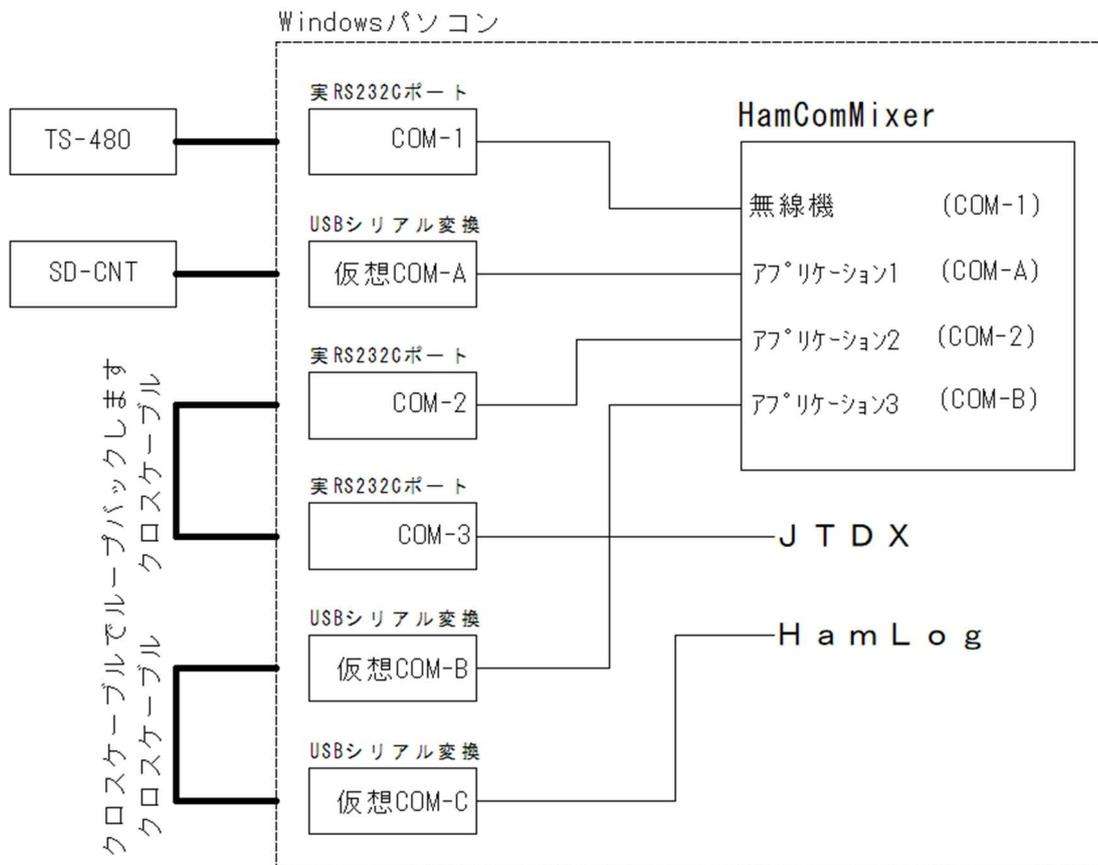
無線機の USB でパソコン内に直接仮想 COM ポートが作成される場合は上の「仮想 COM-E」が無線機で作成される仮想 COM ポートです。

SD-CNT 等の外部ハードアクセサリは USB シリアル変換等を利用して接続します。

実 RS232C ポートがある場合はその利用も可能です。

表記の上で「COM-A」等を記述していますが、パソコン上では COM1～N になります。

USB シリアル変換アダプター、もしくは実COMポート利用の場合



上記は参考例ですが、基本的にはパソコン上のCOMポートは1:1なのでアプリケーションとHamComMixerはループバックでcom0comの様に接続します。

この場合、実RS232Cポート、USBシリアル変換は問いません・・・

表記の上で「COM-A」等を記述していますが、パソコン上ではCOM1~Nになります。

遅延起動のファイル書式

参考例

```
COM7,6,0
COM20,3,1
COM22,5,0
COM24,5,0
1,5,1
#上記は通信の設定、これ以降に起動アプリの情報を設定
#=====
#通信の設定は[COMポート,通信速度,フォーマット]
#COM番号>接続されているCOMポート
#通信速度>0:300,1:1200,2:2400,3:4800,4:9600,5:19200,6:38400,7:57600,8:115200
#フォーマット>0:8N1,1:8N2,2:8E1,3:8E2,4:8O1,5:8O2
#5行目は通信仕様,タイムアウト値,タイムアウト動作
#通信仕様>0:YaesuCAT-bin,1:Yaesu,KenwoodCAT-ASCII,2:IcomCI-V-bin
#タイムアウト値>1~N
#タイムアウト動作>0:返信のタイムアウト,1:コマンド処理の終了
#=====
#書式 [遅延時間(秒),アプリ名称(フルパス),アプリ起動オプション(無い場合は記述無し)]
#遅延時間は先のアプリケーション起動後からの遅延です
#書式例 10,C:%W$JT%wsjtx%bin%wsjtx.exe,--rig-name=Rig1
#行先頭の「#」はコメント行(必ず先頭に記述)
#ここまでは削除しないでください
5,Z:%WinApp%TurbohamLog%Hamlogw.exe
5,Z:%tos_i%Desktop%Yorozu_Tool%SD-CNT_Cont.exe
5,C:%JTDX64%159-32A%bin%jtdx.exe
```

最初の4行は通信ポートの設定です。

5行目は通信仕様・タイムアウト値・タイムアウト動作の設定です。

6行目以降「#」で始まる行は説明を記したコメント分です。

コメント行以降が遅延起動するアプリケーションの記述です。

遅延秒数、フルパスを含むアプリケーション実行ファイル名、アプリケーションへのオプション文字列

..... オプション文字列は省略可能です。

..... 各文字列はカンマで区切ります。

このアプリケーションの記述行も先頭に「#」を記述すればコメント扱いになります。

コメント「#」の文字は必ず行先頭に記述してください。

上記例では5秒後にハムログを起動、その5秒後に SD-CNT_cont を起動、さらに5秒後に JTDX を起動します。

HamComMixer の切断・終了時はこの遅延起動を実行した場合、この逆順で終了を各アプリケーションに要求します。ただしこの要求を受け付けないアプリケーションもあるかもしれません。

HamLog、JTDX、wsjt-x は終了してくれることを確認しました。

初版

2024. 08. 09

Ver0. 90

初版をリリース

yorozukosiraeya

萬拵屋 by I-system service